

乳幼児の保護者の皆様へ

予防接種については、高島市配布の『予防接種と子どもの健康』というパンフレット等をよくお読み下さい。理解しにくいことがありましたら、医師にご質問下さい。

ワクチンの同時接種については日本小児科学会も推進しています。ワクチンの同時接種を行うことで、予防接種のための通院回数を減らし、親子の負担を軽減できると見込まれます。保護者の方が同時接種を希望され、医師が必要と認めた場合は、数種類のワクチンを同時接種で受けていただくことも可能ですので、希望される場合はお申し出下さい。

< 予防接種・予約専用電話 > 0740-36-2299 (平日12:30～16:00)

\*\*\*\*\*

## < ワクチンの同時接種を希望される場合のスケジュール例☆ >

0才2ヵ月～ ヒブ + 小児用肺炎球菌 + B型肝炎 + ロタウイルスワクチン ロタテック 同時接種

↓ 5週間後 ( 0才3ヶ月になっていれば4週間後でも可)

0才3ヵ月～ 四種混合 + ヒブ + 小児用肺炎球菌 + B型肝炎 + ロタテック 同時接種

↓ 4週間後

四種混合 + ヒブ + 小児用肺炎球菌 + ロタテック 同時接種

↓ 5週間後 ( 0才5ヶ月になっていれば3～4週間後でも可)

0才5ヵ月～ BCG + 四種混合

0才7～8ヶ月頃 B型肝炎ワクチン3回目 (B型肝炎ワクチン1回目から20週以上を経過した後)  
(3回目接種の1～2ヶ月後に HBs 抗体価検査)

1才0ヵ月 麻疹風疹混合 (MR) + ヒブ (追加) + 小児用肺炎球菌 (追加) 同時接種  
(水痘ワクチン1回目、おたふくかぜワクチンも同時接種可能です)

1才1ヶ月 水痘 (みずぼうそう) ワクチン1回目 (同時接種しなかった場合)

1才2ヶ月頃 おたふくかぜワクチン (同時接種しなかった場合)

1才7ヶ月 水痘 (みずぼうそう) ワクチン2回目 + 四種混合 (追加)

☆ 上記スケジュールは、単なる1例です。受ける方の体調によって変動が見込まれます。各ワクチンの接種間隔は高島市配布の『予防接種と子どもの健康』と厚生労働省のHPをご参照下さい。

(2020年10月1日から注射生ワクチン以外の接種間隔が大幅に変更されています)

© 日本小児科学会の推奨は → [http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/vaccine\\_schedule.pdf](http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/vaccine_schedule.pdf)

# 予防接種を受ける時期の目安と公費負担の有無

高島市民病院 2022年2月

接種時期	予防接種名	負担	種類	備考
生後 6週～32週	ロタテック (ロタウイルス)	公費	生ワクチン	ロタテックは、5価のロタウイルスワクチンです。生後6週から32週までに4週間以上の間隔で3回内服です。生後14週6日までの初回内服が推奨されています。他ワクチンと同時接種が可能です。2020年10月から公費接種になりました。
0才～全年令	B型肝炎	右参照	不活化	B型肝炎ワクチンは、0才を含め全年令が対象です。2016年10月から0才児は公費扱いです。1才以上の方は自費接種となります。 B型肝炎ワクチンは3回接種です。2回目は1回目の4週間後に、3回目は1回目から20週以上たってから受けましょう。他ワクチンとの同時接種が可能です。 3回目接種の1～2ヶ月後にHBs抗体検査(自費)を受けましょう。
生後2ヶ月～	ヒブワクチン 初回接種 (3回)	公費	不活化	ヒブワクチンは、Hib(インフルエンザ菌b型)感染予防のためのワクチンで、0才2ヵ月から受けられます。27日以上の間隔で3回接種を受けましょう。他ワクチンとの同時接種が可能です。1回目の接種は0才6ヵ月までに、3回目の接種は0才11ヵ月までに受けましょう。
	小児用 肺炎球菌 初回(3回)	公費	不活化	小児用肺炎球菌ワクチン(プレベナー13)は、肺炎球菌感染予防のためのワクチンで、0才2ヵ月から受けられます。27日以上の間隔で3回接種を受けましょう。他ワクチンとの同時接種が可能です。1回目の接種は0才6ヵ月までに、3回目は0才11ヵ月までに受けましょう。
生後3ヶ月～	四種混合 1期初回 (3回)	公費	不活化	四種混合(DPT+不活化ポリオ)の1期初回は、0才3ヶ月から受けられます。20日以上の間隔で計3回受けましょう。他ワクチンとの同時接種が可能です。3回目の接種は0才11ヵ月までに受けましょう。
生後5ヶ月～	BCG	公費	生ワクチン	BCGは、なるべく生後 5ヶ月～ 7ヵ月の間に受けましょう。当院では生後5ヵ月～11ヵ月の乳児を対象としています。
1才頃に	ヒブワクチン 追加	公費	不活化	ヒブワクチンの追加接種(1回)は、初回接種(標準的には3回接種)の3回目終了後、7ヶ月以上あけて受けましょう。標準的なスケジュールで初回接種を受けられなかった場合、追加接種の可能な時期が異なりますので、『予防接種と子どもの健康』をご覧ください。
1才の間に	麻疹風疹 (MR)	公費	生ワクチン	1才になったら、麻疹風疹(MR)第1期接種を受けましょう。 1才11ヵ月までは公費で受けられます。
1才～	小児用 肺炎球菌 追加	公費	不活化	小児用肺炎球菌ワクチン(プレベナー13)の追加接種(1回)は、1才以上で受けられます。初回接種(標準的には3回接種)の3回目終了後60日以上あけて受けましょう。標準的なスケジュールで初回接種を受けられなかった場合は、『予防接種と子どもの健康』をご覧ください。

接種時期	予防接種名	負担	種類	備考
1才～	水痘	公費	生ワクチン	1才0ヶ月～2才11ヶ月の間は公費で受けられます。2回接種です。 2回目は1回目終了後、6ヶ月から12ヶ月の間に受けましょう（最低でも3ヶ月以上の間隔で受けましょう）。
	おたふくかぜ	自費	生ワクチン	おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)予防接種は1才以上で受けましょう。
1才半頃に	四種混合 1期追加	公費	不活化	四種混合(DPT+不活化ポリオ)の1期追加接種(1回)は、1期初回接種(3回)の3回目終了後、1年～1年半後に受けましょう(3回目終了後、6ヶ月以上あけたら受けられます)。
3～4才前後	日本脳炎★	公費	不活化	日本脳炎ワクチン第1期の標準的接種期間は、3才時に1～4週間隔で2回接種、4才時に1回追加です★。
年長組の時	麻疹風疹 (MR) 2期	公費	生ワクチン	小学校入学前の1年間（保育園や幼稚園の年長組の間）に麻疹風疹混合(MR)ワクチンの第2期接種を受けましょう。
	おたふくかぜ	自費	生ワクチン	下記※をご参照下さい。
9才★～	日本脳炎★	公費	不活化	9才～12才11ヶ月で日本脳炎ワクチン第2期(1回)を受けましょう。 (2009年10月1日以前のお生まれの方は、下記★をご参照下さい)
9～10才以上の 女子	子宮頸がん ワクチン	公費	不活化	子宮頸がんワクチン(サーバリックスまたはガーダシル)は3回接種です。サーバリックスは10才以上、ガーダシルは9才以上の女子が対象です。小学校6年生から高校1年生の女子は公費で受けられます。
小学6年頃	二種混合	公費	不活化	小学校6年生は、二種混合ワクチン(ジフテリア+破傷風のワクチン=DTワクチン)を受けましょう。
全年令	インフルエンザ	自費	不活化	毎年マイナーチェンジされるワクチンです。0才6ヶ月～12才は毎年2回接種(2～4週の間隔)です。13才以上は毎年1回接種です。
	B型肝炎	右参照	不活化	B型肝炎ワクチンは、0才を含め全年令が対象です。2016年10月から0才児は公費扱いです。1才以上の方は自費接種となります。B型肝炎ワクチンは3回接種です。2回目は1回目の4週間後に、3回目は1回目から20週以上たってから受けましょう。 3回目接種の1～2ヶ月後にHBs抗体検査(自費)を受けましょう。

※日本小児科学会は、MR2期とおたふくかぜワクチン2回目の同時接種を推奨しています(添付文書記載はありません)。

★日本脳炎ワクチンは1期3回(0才6ヵ月～7才5ヵ月)と2期1回(9才0ヵ月～12才11ヵ月)が公費の対象年齢です。  
なお、1995年4月2日から2007年4月1日生まれの方は、特例規則で19才11ヵ月まで公費対象です。2007年4月2日から2009年10月1日生まれの方は別の特例規則対象者です。小児科外来へ母子健康手帳を出してお尋ね下さい。

【ご注意】2020年10月1日から予防接種の間隔が大幅に変更となりました。注射生ワクチンから次の注射生ワクチンまでは27日以上の間隔が必要ですが、異なる種類のワクチンの場合は接種間隔に制限がなくなり、発熱や接種部位の腫脹(はれ)がなく体調が良ければ受けられます。ただし、同じ種類のワクチンを複数回受ける場合はワクチンごとに決められた間隔を守る必要があります。詳しくは厚生労働省HPの予防接種欄をご参照下さい(小児科外来にパンフレットを置いています)。